



とうおん健康づくりの会が市に寄附 市民と行政による協働の健康づくり

ウォーキング大会を開催するなど会員の健康づくりに取り組む自主組織「とうおん健康づくりの会」が、第17回日本心臓財団小林太刀夫賞を受賞し、副賞25万円を市に寄附しました。活動が「住民、行政、大学が一体となった健康づくりの展開と循環器病予防に資するエビデンスの形成」として評価され受賞。古河恭一会長は「市の健康づくりと会の普及に役立ててもらいたい」と話しました。

男性も女性も一緒に子育てする時代へ パパもママも身近なものでおうち遊び

3月8日、東温市総合保健福祉センターで開催された「パパもママも今すぐできるおうち遊び」(主催：総務課)に親子約20組が参加しました。えひめこどもの城スタッフの古澤智さんを講師に招き、タオルや新聞など、家庭の日用品でできる身体遊びが紹介されました。子どもたちの笑顔が光り、参加した親御さんは「簡単にできる遊びを知れた。家でもやってみたい」と触れ合いを楽しみました。



つないできた歌声響け 東温ジュニアハーモニー定期演奏会

3月11日、中央公民館で第19回東温ジュニアハーモニー定期演奏会が開催されました。団長の薬師神浩一さんが「声を出す活動が制限される中でも、歌声をつないで今日まで来ました。子どもたちの歌声をお楽しみください」と挨拶した後、全20曲を披露。透き通るような歌声に会場が大きな拍手に包まれました。

「コーラスでは、昔の曲から最新の曲までいろいろな時代の曲を歌うことができました。6年間ありがとうございました。(小田由華さん)」
「小学校1年生からジュニアハーモニーに入りました。一番の思い出は大切な仲間とこのステージで歌えたことです。(薬師神佳吾さん)」



Interview



北吉井小6年 上野 陽生 さん

6年間の思い出を胸に

5年生の発表で「夢」の文字が大きく表現されていたのが、心に沁みました。学校生活では、3年生の担任だった稲家先生が優しく面白く指導して下さったのが一番心に残っています。



「未来へはばたけ」全校生徒が体育館で6年生に感謝伝える 北吉井小学校で6年生を送る会 3年ぶりに開催

コロナ禍での学校行事の中止や制限付き開催などを越え、3月10日、3年ぶりに北吉井小学校体育館で、全校生徒が集まった「6年生を送る会」が開催されました。感染対策は引き続き行いながら、思い出クイズや6年生との3本勝負など、学年ごとに出し物を披露して6年生を労いました。森本久美校長は「北吉井小の力が送る会に全て込められていて、伝統はこれからも続いていくと確信できる会でした。6年生の皆さんは卒業までもう少し。充実した日々を送ってくださいね」と締めくくりました。



消防・防災力の向上 決意新たに 3年ぶりに東温市消防出初式を開催

3月5日、東温市消防出初式が3年ぶりに開催されました。会場となった総合公園では、重信・川内両中学校吹奏楽部の合同演奏が出初式に華を添えると、少年消防クラブの皆さんによる訓練発表、消防団員のポンプ操法が行われ、約400人が日頃の訓練成果を発揮しました。消防功労者に対する表彰なども行われ、参加した皆さんからは「自分たちのまちを守る」使命感が伝わってきました。

中小零細企業振興シンポジウム開催 中小企業の今を知り、政策へ活用

2月18日、「温か笑顔の東温市をつくる中小零細企業振興シンポジウム」が東温市農村環境改善センターで開催され、市内中小零細企業を対象とした現状把握調査の結果報告やパネルディスカッションなどが行われました。今回はオンラインでも配信され、参加者は大学教授や地元事業者の意見に熱心に耳を傾けていました。現状把握調査は今後の政策に活かされます。





東温高校でポスターセッション授業開催 東温市ごみ分別表を英訳化

3月14日、東温高校2年生の総合的な探求の時間研究発表会がポスターセッション形式で行われました。中には東温市のごみ分別表を英訳化したグループも。きっかけは、ALTの先生がごみを出すときに苦労していると聞いたからだそうです。カナダ出身の先生と一緒に英訳化に挑戦。生徒は「注意書きの英訳に苦労した。少しでも外国人にとって住みやすいまちになれば」と期待を込めました。

東温アートヴィレッジフェスティバル 2022 作品 実力俳優2人のユニットが熱演

東温アートヴィレッジセンター（見奈良）で「山の声 ある登山者の追想」が上演されました。熱演したのは、2019年に愛媛に移住した岩淵敏司さんと東京在住の森田祐史さんのユニット「イワントモリ」。実在した昭和初期の登山家が題材となった作品で、四国内で上演されるのは初めてだそうです。2人の息の合った掛け合いに魅了され、観劇席からは最後まで拍手が鳴り止みませんでした。



河之内の春の自然を感じて 山のマルシェ「ichi.494」で弾む会話

3月5日、河之内地区で山のマルシェ「ichi.494」が開催されました。今回は、「ひととき」や「おやまのアトリエキズナ」、「近藤家」といったお店が並ぶ坂ノ上地区（白猪の滝農村公園手前）の3会場で行われ、ハンドメイドの小物やキッチンカーなど市内外から多くの出店がありました。訪れた人は出店者との会話を弾ませ、河之内の春の陽気を感じながら楽しい時間を過ごしました。

「未来ある子どものために」東温市奨学金基金に寄附 寄附者に花束と感謝状を贈呈

3月16日、東温市奨学金基金への寄附者に花束と感謝状を贈呈しました。感謝状を受け取った片山益男さんは「何かできることはないかと家族と話したとき、地域の子どものために使おうと決めました」と笑顔を見せてくれました。東温市では独自の奨学金基金制度により、成績優秀でありながら経済的な理由により高校進学が困難な子どもたちに支援を行っています。



Interview



虫博士 武智 礼央さん

「夢中」のきっかけづくり

外にはお子さんが夢中になるものが沢山あります。虫の探し方や少しの声掛けのように大人の“テクニック”がきっかけを作れます。普段の生活で親御さんが伝えていけるようになったら嬉しいです。



小さな子どものおさんぽ会「とことこクラブ」開催 未就園児たちが昆虫や植物を探索

3月8日、ツインドーム重信で自然観察会「とことこクラブ」（主催：環境保全課）が開催され、親子8組が昆虫や植物の探索、観察を楽しみました。進行はNPO法人自然環境教育えことのは。外ではてんとう虫の幼虫やさなぎが木に登って脱皮する過程や、土筆などが見られ、子どもたちは約1時間半、夢中になって探索していました。参加した佐々木佑さん・亜子ちゃん親子は「休みをとって参加しました。自然と触れ合う時間は普段なかなか取れないので、親子揃って良い時間になりました」と喜びました。



市内こども館でひなまつりイベント開催 健やかに育つよう願いを込めて

春の陽気が感じられた3月6日、よしいのこども館でひなまつりイベントが開催されました。イベントには親子約15組が参加。館内は、スタッフ手作りのひな人形を前に工作や手遊びを楽しむ子どもたちで賑わいました。スタッフは「できることが増えていくみんなの成長が嬉しい」と締め、子どもたちが健やかに育つよう願いを込めたひなまつりは、令和の時代も受け継がれています。

上林小学校でふるさと道徳学習 地元の偉人菅能宇吉氏を学ぶ

上林小学校4～6年生が、上林地区出身で石工として活躍した菅能宇吉氏について学びました。菅能氏は生前、大阪城や松山城などの石垣修復を手掛け、職人の技と経験で人々の生活を支えた偉人。授業資料は菅能氏の子孫の方などが協力して作成。当時使われた約80kgの石を運ぶ道具に触れた子どもたちは、誇りをもった仕事生きがいとなることに感銘を受けていました。

